

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2325号 2016年09月20日（火曜日）

《 waiting for BOJ and FOMC meetings 》

要するに今週のマーケットは月曜日のニューヨーク市場がそうであったように「FRB と BOJ の決定を待って週前半は様子見」ということでしょう。週明け月曜日の同株式市場は寄り付きではダウが100ドル以上上げる場面もあったが、あと反落して結局は先週末に比べてもちあい圏で終わった。為替市場は対ドル、対ユーロともにやや円高だった。「今週の FOMC による利上げはない」との見方が強まったことがドル安・円高に繋がった。ドル・円は101円台のハイでの引け。しかし全体的状況は「待ち」。

市場の最大の関心は「FOMC の利上げはあるのか、声明の文言はどうなるのか。イエレン議長はどんなトーンで現状と今後を語るのか」という点でしょう。加えて BOJ が新たな緩和をするのか、それとも「総括的検証」をまず示して、行動は後の金融政策決定会合に委ねるのか。FOMC の決定は「A か B か」といったやや単純な図式のように見えるが、日銀の場合は今までの量、質、金利に加えて「時間軸」（日経が報じているような）という視点を打ち出して消費者の今後の物価情勢に対する見方を変えようとするのかどうか。でもそれを具体的にどうするのかなど、いろいろな観測が出来る。

特に繰り返さないが、日銀は2013年4月に量的・質的金融緩和を導入した際に、かなりの自信を持って「物価2%の目標を2年で実現する」と約束した。ところがそれから約3年半たっても物価上昇の勢いは弱い。なぜなのか。一部では日銀の政策に対する懐疑、反発まで生じている。その際の日銀の宣言は力強かったし、当初の1年くらいは黒田日銀の措置がマーケット的（株、為替）には成果が大きかっただけに、日銀がマイナス金利政策を発動して以降のマーケットでの円高、株安には失望が広がっている。

ポイントは3年半の黒田日銀の政策の効果、逆効果（副作用）を検証し、今後どう政策運営をしていくのかという点。むろんその中には「今後の政府財政政策とのマッチング」も検討されるべきだろう。この問題についてはこれまでも繰り返しこのニュースで取り上げて来た。FOMC と BOJ の会合の予定を含めて、今週の火曜日以降の主な予定は以下の通り。

09月20日（火曜日）

金融政策決定会合（～21）

8月コンビニ売上高

米8月住宅着工（21:30）

米 FOMC（～21）

| | |
|-------------------|---|
| | 東京商品取引所が新システムに移行 |
| 0 9 月 2 1 日 (水曜日) | 8 月貿易統計 8 月食品スーパー売上高 8 月スーパー売上高 8 月粗鋼生産 8 月百貨店売上高 金融政策決定会合の結果発表 黒田日銀総裁会見 8 月訪日外国人客数 米 FOMC の結果発表 イエレン米 FRB 議長が会見 |
| 0 9 月 2 2 日 (木曜日) | 米 7 月 FHFA 住宅市場指数 米 8 月コンファレンスボード景気先行指数 米 8 月中古住宅販売 |
| 0 9 月 2 3 日 (金曜日) | 8 月日本・日経 PMI 速報値 |

《 predominantly green country 》

先週も取り上げたキューバの続きを。先週はキューバの貨幣制度や経済を取り上げましたが、今回は自然、国民の歌好きなどを。

予想外に思われる方も多いと思いますが、キューバは「旧型アメ車の国」ではありません。実に実に「緑の国」です。国旗に緑が一つも使われていないのはおかしいとさえ思う。私は「キューバは緑の砂漠だ」という印象さえ持った。「緑の砂漠」というのは言葉の矛盾のように聞こえる。しかしそういう感じがする。国土の大部分は見渡す限りの緑。それ以外には人が少ないという事もあるのかもしれない。私は常々、「日本は世界の中でも緑の国」だと思っているのですが、キューバの緑は質が違う。

日本のように林の林立ではなく、基本的には低木、低草の連続。そしてところどころに高い木がある。つまり「緑の砂漠の中に背の高い木がところどころ生育している」という感じ。道路でなく、街でもない場所は見渡す限りの緑。それがキューバです。その緑のアンジュレーションの綺麗なこと。世界遺産の溪谷もあって、とっっても「来て良かった」と思った。

国旗に使われているブルーはキューバには無論ある。海、そして空。北は大西洋に、南はカリブ海に挟まれている。綺麗な海があって当然だ。しかしキューバは結構曇りも多い。ハリケーンも来る。その時はブルーが消える。しかし緑は晴れても曇っても、そして雨が降っても緑です。だから私はキューバが国旗のメインの色を緑に変えることは理にかなっていると思う。世界遺産になっているというロス・インヘニオス溪谷の緑はほれぼれするほど美しい。

なぜそんなに緑が目立つのか。その一つの原因は「人口の希少」にあると思う。キューバ

の面積は日本の本州の半分。そこに1126万（2013年の統計）の人口が住む。日本に比べれば極めて少ない。故に自然が放置され、一度人間の手が入ってもその後しばしばまた放置されて緑の楽園が生まれるという仕組みになっているのだと思う。変わった木が一杯ある。ハワイなどでモンキーツリーと言われるあの幹が重なり合ったような木が一杯あって、それがまたでかいし、一旦上に伸びた枝が一斉にもう一度下降しているような木もある。名前も知らないが、とっても目立つ。

キューバは緑とともに音楽が溢れる国です。やや良いレストランでは無論のこと、お土産屋さんの前でも、ミュージアムの前でも3人一組のトリオ（ギター、マラカス、太鼓などトリオを形成）で楽しそうに体を揺すりながら歌付きの音楽を聴かせてくれる。むろん、「気に入ったらお金を入れてね」というスタイル。それに違和感がない。キューバと音楽はよく合う。ついちょっと聞いてしまい、そして体が動いてしまう。ホテルのロビーでも毎晩、フロであったり、従業員のグループが音楽をやっている。

トリオの構成は入れ替わる。有名レストランやホテルのロビーではしばしばピアノが加わる。日本の旅館の中には和太鼓をやったりする従業員グループがいることもあるが、全体から見れば極めて希有。しかしキューバで音楽のないまともなレストラン、ホテルを探すのは無理。「どこにでも音楽があること」が日本と比べた場合のキューバの一つの特徴です。キューバのタクシーの運転手は、会話が途切れると必ず手を伸ばして音楽を室内に響かせる。

なぜそれほど音楽が好きか。気候もあるし、民族性もあると思う。しかしやはり労働との関係だと思う。昔から酷暑の中でサトウキビの収穫（それ以外もそうですが）をしてきた人々にとって、少し涼しくなった夕刻から夜にかけての時間の歌と踊りは、疲れ克服と気分転換に最高だったのではないか。

スペインの音楽にアフリカから運ばれた奴隷が持ち込んだ音楽が融合し、独特の音楽が生まれたのだと思う。とにかくキューバは一日に何回もトリオの音楽をどこかで聴くことになる国です。別にキューバに限らずラテンの、そして中南米の特徴ですが、「暮らしの中に音楽がある」「それが一つの産業になっている」というのは面白い。

「産業」と書いたのは、それを生業、ないし副業にしている人が結構多いのではないかと思えることだ。趣味と実益。月々の給与が低いなかで、また今後の年金が少ない中で、私たちのガイドのオスワルドは真剣に「歌手の道」を探しているようだった。実際に彼はバスの中で良く歌を歌ってくれた。

音楽に付きものの食べ物はどうか。はっきり言ってキューバでは食事より音楽の方が楽しい。バラエティがある。後半のハバナの結構有名なレストランは例外として、それまでに食べたものはどこでも似ていた。明らかに社会主義体制の残滓だった。以前は中国もそうだった。それにとても塩辛い。野菜の煮込みもスープも。きっと体が塩分を欲したのだと思う。後半のハバナ滞在中にホテルのイタリアレストラン（イタリア大使館に近い）と、サンフランシスコ・ターミナル（船のターミナル 今は閉鎖されていた）の近くのスペイン料

理の店は、「まずまず」だった。比較の問題だが。

何せ、生野菜に安心できるものが少ない。全体にしなびている。農薬は使っていないかも知れないが、流通の問題でしょう。しかし最後のスペイン料理屋では店の雰囲気を見た上でシーザーサラダを頼んだ。これは美味しかった。キューバに来て初めて食べたナマに近い野菜の食べ物だった。酒はいける。ラム酒は Havana club などいっぱいあったし、モヒートやフローズンダイキリなどカクテルも良かった。それぞれの「発祥の店」に行きました。フローズンダイキリ発祥の店にはヘミングウェイが座っていたな。

《 aging Cuban leaders 》

キューバについて強く感じたのは

1. 思っていた以上に社会主義丸出しの国である
2. 警察が強い国である
3. 一般の人々の生活が貧し過ぎる国である
4. 自然がとっても素晴らしい
5. 50年前のアメリカが蘇るタイムスリップしたような国

ということか。「社会主義の残滓」はどこでも見られる。要するに国家独占なのだ。タクシー、バスなどが顕著。運転手は皆公務員だ。ホテルはどうなっているのか知らない。しかし民間資本が跳梁跋扈している兆しはない。キューバが持つ「カリブ海の楽しい国」というイメージとかなり齟齬する。「警察が強い国」はちょっと見では分からない。しかし数日すると「あ、この社会では彼等はエリートなんだ」と分かる。容姿、態度、物腰から。大使館通り (CELLA) では日曜日の朝だけで交通関連の摘発を3件目にした。チケットを切られているようだった。彼等は今の政権、体制をどう思っているのか。政治犯も多い。しかし観光客には良い。キューバではスリくらいしかない。「キューバは中南米で一番安全」とガイド。

「一般の人々の生活が貧し過ぎる国」については先週も触れた。別に外国人の私が言うことではないし、「教育、医療はただ」にしても、「一般のキューバの人達の生活は大変」というのは見ていても分かる。あまりに大変なので、キューバの人達の顔色は悪い。その一方で、貨幣価値にして24倍の「兌換ペソ経済」があり、より多くの人とその経済圏で生活を成り立たせている。ここにはチャンスと高い収入が転がっている。同じモノが右から左に動いただけで24倍の価値の差が生じる。そのフォールアウト (貿易収益からチップまで) は大きい。今のところその膨大な価格差で一番儲けているのはキューバ政府のように見える。

外に笑顔を振りまく兌換経済のキューバ人と、日々の生活に追われる人民ペソ経済圏のキューバ人達。その矛盾を解決できるのは多分「カストロ兄弟」ではない。キューバは新しい指導者が必要だ。しかしそれが誰なのか、それはキューバ人さえも知らない。「ラウル

は既に 85 才だ」とキューバ人。兄のカストロが権力を手放した年齢に近づいている。フィデルは 90 才だ。二人とも「これからキューバを変える」には歳を取り過ぎている。キューバで一番人気があるのはこの兄弟ではない。この兄弟にキューバを追われたチェ・ゲバラだ。

《 have a nice week 》

3 連休はいかがでしたか。天気は冴えなかった。三日とも雨模様。降っていないときもあるのですが、それでもしょぼしょぼの時が多く、時には強く降った。今は台風 16 号が日本列島を襲っている。被害が少ないことを祈ります。

それにしても最近ちょっと思うのは、「人間圏が浸食されていないか」という問題です。熊が日本各地で人間の世界に深く入り込んで死傷事故まで起きているのはよく報じられているが、先日はゴルフ場でプレーヤーが猿の群れに襲われた。神奈川県厚木市での出来事。私も厚木市のゴルフ場では以前はよくゴルフをした。今までそんな話を聞いたことがない。

個人的にもびっくりすることがあった。先週ですが、都内の大きなホテルの庭に夕刻に行ったときです。その庭は起伏があって大きい。突然草むらから二匹の小動物が出てきた。子犬くらい。タヌキだかハクビシンだかの小動物。夜だったのでどちらかは判然としない。ちょっと小型で、タヌキにしては顔と体がすっきりしているような。午後 6 時半を過ぎたくらい。

「オー」と思いました。「へえ、こんなところに君たちが住めるんだ」と思いました。特に急いで逃げる様子もなく、ちょっと足早にまた草むらに消えた。実は狸は別に三多摩の方面に行かなくても都心でも見かける。例えば皇居。東御苑を一周して大手門から出ようとしたとき、お堀の石垣の大手町サイドにいた。

ご存じの方もいると思いますが、大手門の少し竹橋よりにいつも「鯉の餌」がかけられている場所が有る。ランニングしていても分かります。縄が垂れていて、一日に何回かは知りませんが鯉の為の餌が置かれる。お堀の水面にかかるくらいに。タヌキは「これは絶好の食べ物」と思ったのでしょう。多分東御苑のサイドからずっと掘って穴を作っている。そして時間が決まっている鯉の餌を頂戴しに来ているのだと思う。

私が見たのは 2015 年の 03 月 04 日です。その日に日本橋や江戸城の天守閣があったころをデジタル的に再現し、それを 3D 眼鏡をかけて見学する半日ツアーに参加した時。皆で大騒ぎになりました。なので、都心にたぬきやハクビシンがいることには私は驚かない。しかし「ちょっと増えているのかな」「人間圏を浸食？」と思っているのです。あまり急いで逃げもしない。逃げないと言えど都内の雀やカラスもそうです。

カラスは増えすぎると害を生みますが、皇居のカラスなどランナーに慣れて相当近づいても逃げない。「面倒だな」といった風情。中国から来た観光客は、雀が人間の食事を平気

で目の前でついでに来る（例えば紀尾井町のオーバッカナル）のを見ると仰天するらしいが、その程度なら良い。しかし日本という列島という視点で見ると、人間の個体数は減少している。としたら、他の動物が「自分の領域」を取り戻そうとするのは自然か？

それでは皆様には良い一週間をお過ごし下さい。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》